

## 令和5年度 第1回農村RMO推進研究会（概要）

2023年9月22日（金） 13時30分～16時30分  
（オンライン開催）

### 【第2部】農用地保全のためのプロセス学習（事例解剖）の概要

#### ＜テーマ1＞ 農用地保全の内容、農村RMO形成のプロセス

質問：農用地保全の具体的な内容。

農用地保全に至るプロセス、また、どのような苦労があったか。

##### （釜ヶ淵みらい協議会）

- ・お米作り、放牧、養蜂、住民農園、市民農園、木を育てるなど多種多様な活動を行っている。
- ・人を集めることについて、活動を絞るというやり方もあるが、むしろ色々やった方が、この地域は面白いとなり、さらに組み合わせで面白さも増す。例えば、お米作り体験で来た子どもが、馬を触って、蜂蜜を絞って帰ると経験が深まり、それがまた人を呼び込んでくれる。
- ・どう立ち上がったかという、思いをもって何かをやりたいという人の存在。自分はお米をつくりたい、馬を飼ってみたいという憧れで動いてきたので、「やりたい人をけん引役にする」ことが、一番上手く立ち上がるのではないかと思う。

##### （秋津野地域づくり協議会）

- ・農家レストランを経営するとき、地域に野菜がほとんどなかった。しかし、地域を見たら割と平地の農地が放任されており、そこを一旦借り受け、野菜づくりを始めたのが大きなきっかけだったと思う。このことがなければ、3年前の「株式会社秋津野ゆい※」の立ち上げ、廃園の復活に至らなかったかもしれない。
- ・「ゆい」が廃園を復活させてから、平地の廃園は他の皆さんでほぼ復活させている。農地を荒らしたら悪いということを見せたのが良かったのではないかと思う。
- ・今までの農業をやっていたら農家がしんどい、このまま続かないだろうということで、全ての木を一旦取り払って、次の農業を目指すスタイル作りに取り組んでいる。
- ・割と高齢の方が肅々とやってくれて、手弁当で木を切って、苗木を植えて、成長を管理しているところであり、こういった経験も役に立つと思う。
- ・農地を守るという部分では、荒れる前に農協がマッチングをしてくれる。
- ・急傾斜で一番条件の悪いところは、どうしても見放されているのが現状。景観作物を植えることを考えているが、ここが一番の問題点で課題。

※「株式会社秋津野ゆい」：梅の生産販売、廃園復活等に取り組む法人

##### （本山町農村みらい会議）

- ・平成17年くらいに当時の農業公社の職員に、みんなで何かやろうと言って立ち上げたのが始まり。

みんなの知恵を出し合ったらもっと美味しい米ができるんじゃないかと、各々の意識にとらわれずに、いい意見を集約して米づくりを始めた。

- ・ 県の方にも入ってもらい、毎月の生育状況などのデータ管理を行っている。
- ・ 「土佐天空の郷<sup>※</sup>」が成功した上で、多面的機能支払交付金を町全体でやろうとなり、町全体 24 地区で困っているところをみんなで助け合っている。
- ・ 土木技術がないところには他の地区から応援に行ったり、草刈り応援など行っていたところに農村 RMO の話が来たので、すんなり取組むことができた。
- ・ 町内全域に農村 RMO の会議を行うと声をかけたところ、かなりの人数が出てきてくれた。若い方の意見は、この景観を残したいというのが一番であった。
- ・ 山が荒れたら川が荒れ、川が荒れたら海が荒れる。山が荒れると災害が起こりやすくなり、山に住む人もいなくなり獣が増えるので、そういうことを防ぐためにみんなで話し合っている。

※本山町の棚田で生産されるブランド米

質問：釜ヶ淵みらい協議会へ

若い人や地域外の人を呼び込むには、地域の方は何から始めたらよいか。

(釜ヶ淵みらい協議会)

- ・ あまりうるさいことは言わないこと。
- ・ 移住者は、何かやりたいことを持って来ている人がほとんどなので、そこに寄り添ってあげるのが一番。「あんた何やりたいん」と聞いて、それを邪魔せず「こういったことだったら出来るよ」とか助け舟を出せると、人が来やすいのではないかと思う。

質問：釜ヶ淵みらい協議会へ

最適土地利用総合対策の会議に呼んでくれたとのことであるが、地域住民と移住者が繋がる仕掛けについて、地域の方はどういった配慮があったのか。

(釜ヶ淵みらい協議会)

- ・ 大事なのは頑張っている姿を見せることだと思う。白雪牧場をつくるのに、クラウドファンディングをやって、自分達で空き家を潰して建物を立ち上げた姿を見てもらったので、会議に誘われたと思っている。
- ・ 農村 RMO には、農協が一番機能的に近いと思う。農協は、生活サービスの分野も行っており、各集落の人の状況を本当によく知っている。農協を絡めていくと関係がうまく作れるのではないかと思う。

質問：秋津野地域づくり協議会へ

秋津野地域づくり協議会の「まるっと」という図（複数の既存団体との連携図）。各団体を「まるっと」繋げる難しさは。

(秋津野地域づくり協議会)

- ・ コミュニティビジネスについては、役員や出資者が重なっているので合意は得やすい。
- ・ 町内会組織の部分は、生活支援の部分で関わってくるが、高齢化で集まるのがしんどい、行動力がなくなっている。また、リーダー格の人が 1、2 年毎に変わったり、順番制になっているので、合

意形成がとりにくい。

・町内会を含めた「秋津野塾※」で、今回のRMOの生活支援を走らせながらやっていきたい。

※地域にある組織・団体を網羅した地域づくり協議会

質問：本山町農村みらい会議へ

農業公社、多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払などの農業関係の組織と、それ以外の社会福祉協議会などの組織をどうやってまとめていくのか。

(本山町農村みらい会議)

- ・たくさんの組織が入っているが、それぞれの組織にまたがっている人が多いので理解が早く、何をやりたいのかも明確なので、苦勞なく入れたと思う。
- ・農村RMOでは、生活支援の部分が社会福祉協議会の部分になると思うが、事業の制度上、農業を交えないといけないというところで頭を悩ませている。

質問：秋津野地域づくり協議会へ

手上げ方式でやりたい方がやって、いろんなプロジェクトが立ち上がる。  
その時のポイントとして、失敗については、みんなでとがめないみたいな雰囲気があったのか。

(秋津野地域づくり協議会)

- ・直売所を立ち上げたが、半年後に倒産しかけた。自分たちでやり始めたことなのでアイデアが出てくる。地域にあるものを全部詰め合わせたセット商品を作ってみたら、全部売れた。そのことが、ターニングポイントだったと思う。
- ・「秋津野ガルテン※」の立ち上げ時、11地区を2回巡回して説明したが、1回目は大非難だった。諦めかけたが、何年もかけて積み上げてきた計画だったのでゴーサインを出した。
- ・失敗の連続、怒られるのは当たり前。この農村RMOに取組むときも、町内会組織にうまく説明が出来ず怒られた。
- ・社会性・革新性・持続性の3つをいつも考えながら計画を立てている。そして実行するので、方向修正ができる。何も取り組まなければ方向修正はできない。これで私たちはずっとやってきたと思っている。

※地域住民が出資し誕生させた都市と農村の交流を目指したグリーンツーリズム施設

質問：本山町農村みらい会議へ

農村政策を市町村で行うとき、県組織のサポートが大事である。  
サポートチームに「地域支援企画本部」という組織が入っているが、地域づくりのセクションの組織なのか。

(本山町農村みらい会議)

- ・農業関係のセクションではなく、地域振興官という方が地域に来られており、その方が普及支援なども含めて地域づくりの支援してくれる組織である。

質問：秋津野地域づくり協議会へ

廃園の再生で、梅を植えたのはなぜか。

(秋津野地域づくり協議会)

- ・梅と柑橘があるが、柑橘はかなり手がかかる。梅はそんなに手がかからない。
- ・機械化と労働力の少なさを考え、株式会社でまずは梅を栽培して、うまくいけば少しみかんにも手を出したいと思っている。
- ・会社に出資していただいたのは、子育ての終わった時間的に余裕のある方々で、お手伝いもしていただいている。
- ・もし若い世代がついてこなくても、自分たちで出来るかなというぐらいの考えであった。

質問：秋津野地域づくり協議会へ

廃園をボランティアで耕しているとのことだが、具体的に何歳くらいの方が何人くらいでやっているのか。

また、廃園をどうやって集めたのか。

(秋津野地域づくり協議会)

- ・オーバー69歳くらいの方で、人数は10~15人くらい。
- ・何年も放置している持ち主さんと、持っているだけになっているので、わりとすぐに借りることができた。戦略的にやっているわけではなく、我々のところに話が入ってきた園地をお借りして梅畑に再生している。

質問：本山町農村みらい会議へ

ブランド米を地域でつくろうとすると、JAに入れているため出来ないと言われることがあるが、どうやってブランド米として売り出せているのか。

(本山町農村みらい会議)

- ・JAに相談したが、合併しているJAなので、本山町だけ優遇はできないということだった。農業公社がカントリーを持っていたので、農業公社にお願いして、人のお米と混ざらないようにしている。
- ・全国に出荷するときには、コンテストで1位になっても、個人名は出さない。みんなの知恵を出した成果なので、個人名を出さないことは、立ち上げたときに話し合っただけで決めた。

(釜ヶ淵みらい協議会)

- ・自然栽培米ということでブランドを作ろうともがいている。
- ・「立山農学校※」というプログラムを作って、何件か実践に参加する人を集めている。数年後、ブランドになればいいと考えている。

※自然栽培の米作りを学ぶプロジェクト

## ＜テーマ2＞ 農用地保全に取り組んだ成果と課題

質問：釜ヶ淵みらい協議会、秋津野地域づくり協議会へ

最適土地利用総合対策や梅林への再生について、そういった取り組みによって、どのような成果が見込まれるのか。あるいはどのような課題があるのか。

### （釜ヶ淵みらい協議会）

- ・最適土地利用総合対策にしても農村RMOにしても、ありがたかったのは、ゼロから立ち上げる時は商売にならないものがほとんどなので、そのときに専門家やコンサルタントの技術指導が受けられ、お金にならないうちの費用を賄ってくれた。一営利企業の農家ではできない、立山農学校のようなプログラムを立ち上げることができた。
- ・長期的にみたらこのプログラムに参加することで移住者や就農者が増えてくる可能性がでてきたのが、今のところ見えている一番の成果。
- ・養蜂を始めたときに、先生の指導を仰いだが、その費用を最適土地利用総合対策で賄うことができた。新しいことを始めようとした場合に、初期費用のところを思いきれるというか、一部後押ししてくれるのがありがたかった。
- ・課題としては、農家をやってみたいという人は、自分自身もそうだったが、ほとんど憧れでやってくる。大変さを知らなかったり、覚悟がなかったり、体を動かすのが嫌いだったりとか、本当に農家としてあるべきところと、何も知らない人との差を埋めるのが大変な部分だとやってみて感じた。

### （秋津野地域づくり協議会）

- ・まだまだ成果はでていないが、去年整備した50a弱の梅園の反対側に、若い農業者が廃園を自分で借りて、畑に復活させようとしている。「見せる」（廃園再生）ことが非常に大事だと感じた。これが一番の成果。
- ・果樹園はなかなか集約化できない。今は荒れる前に誰かに貸し借りしてもらうことが必要。
- ・永年作物なので、一旦荒らしてしまうとその年の収入はない。借り受けた時から収入が上がる方向に持って行くほうがよい。

質問：本山町農村みらい会議へ

農用地保全に最初から取り組んでいるが、課題はあるか。

### （本山町農村みらい会議）

- ・農地は維持できていると話したが、高齢化が進んでいる。
- ・高齢化により農家は自然減少していくので、新しい方をどうやって入れていくか。あまりお金にならない米作りを、どうやって次の世代につなぐかが大きな課題。

質問：非農家や土地持ち非農家をどのように巻き込むかが重要だと思うが、非農家などが農業に関心を持ち始めたなどあれば教えていただきたい。

### （秋津野地域づくり協議会）

- ・直売所と都市農村交流施設で働いているのは、非農家のお母さんが8割以上だと思う。移住してきた方たちも働いてくれており、うまく回っていると思う。

- ・コミュニティをしっかりと作ってきたからできることだと思う。お金だけでなく、ここで働くのが誇りみたいに思ってくれていると思う。
- ・地域との関わりがうまくいけば、皆さん応援団になってくれる。

#### (本山町農村みらい会議)

- ・非農家の方は、多面的機能交付金などで水路の泥上げや花の植栽に関わってもらっている。
- ・天空の郷に関して、学校の出前授業に行くと、もともと米作りと関わっていない人でも家に帰って、うちでも天空の郷をつくるという、お父さんがつくり始めた例もある。まず、米づくりを知ってもらう、そこからやっている。
- ・土曜日曜は休んで家族で遊びに行けるような農業で成功していけたと頑張っている。

#### (釜ヶ淵みらい協議会)

- ・移住相談のほとんどが非農家からで、「半農半X」と言われるように、別に本業があってプラスアルファ農村地帯でちょっとした農業をやろうかなという方が一番多い。
- ・そのような人たちは大きい経営面積をやるという感じではないが、数が増えると、集落維持活動、例えば草刈りや用水管理に、貴重な戦力になってくれる。
- ・うまく非農家の人も巻き込みながら将来的な集落をつくれたらと思っている。

#### 質問：釜ヶ淵みらい協議会へ

非農家の人が水路の泥上げなど関わってくれているが、そこから意欲のある人を育てる、次の段階に引き上げていく、受け皿づくりのようなことは考えているのか。

#### (釜ヶ淵みらい協議会)

- ・過去3年間、新規就農者を育てることをやってきたが、その中でやっているのは、一緒にプロジェクトを立ち上げること。
- ・例えば、米粉の「ミズホチカラ」という品種のプロジェクトを一緒に行っており、こちら側の持っているノウハウやネットワークとか色々なものを継承できる。
- ・やる気がある場合は、何か一緒にやるのが一番相手を育てることになると思う。

#### 質問：秋津野地域づくり協議会、本山町農村みらい会議へ

資料の中に「多様な参加者」、「女性」というワードがある。  
活動の中心は世帯主になるだろうが、その配偶者や後継者世代の参加の状況はどうか。

#### (秋津野地域づくり協議会)

- ・秋津野には、いろんな働く場所がある。ジュース工場では、男性2人、女性が5、6人。農家レストランでは、20人近くいるがほぼ女性に任せている。経営もほぼ任せている。
- ・地元の柑橘を使ったスイーツ工房とか、体験工房を立ち上げているが、それも全部任せている。
- ・直売所の「きてら」では、71、2歳の社長が思い切って若返りをしろと言って、50歳そこそこの社長と50歳半ばの副社長と60歳の副社長に若返った。

**(本山町農村みらい会議)**

- ・今現在、農業的活動については、男性陣がほとんど。
- ・農村RMOの取り組みの中で、花のまちづくりを計画しているが、女性主導で動こうとしている。これをきっかけに女性の参加が広がっていけばと思っている。

**質問：秋津野地域づくり協議会へ**

廃園を梅園に再生することを見せることによって、人が動きだしたとあった。

農地管理を見せるというのは、新しい発想であるが、再生の取り組みを見たので、周りが動いたということか。

**(秋津野地域づくり協議会)**

- ・我々の姿を見て動いたかは本人に聞いていないのでわからないが、5反という大きな面積で、ちょうど真向いで農業を始めているのが見える。今度、本人に会ったら聞いてみる。
- ・そういう姿が、他の農家や若い世代に影響を与え、若い世代も一つ思い切ってやってみようという流れを作っていけたらと思っている。

**質問：事前質問から**

一番効果のあった、あるいは一番欲しい支援策はなにか。

**(釜ヶ淵みらい協議会)**

- ・技術の習得や環境整備といったところを応援してくれるのが一番嬉しかった。
- ・運用に関して支援はあってもいいが、あまり支援金でやってしまうと、体質が変わってくるので、むしろ逆効果になるのではと感じている。

**(秋津野地域づくり協議会)**

- ・オレンジ、橙のピールを作る乾燥機や冷凍庫の導入、事務局の人件費などへの支援が必要。

**(本山町農村みらい会議)**

- ・農村RMOの支援は、実証にお金がでるので本当に嬉しい。

**質問：事前質問から**

中山間地域の法面の草刈りがどうしても多くなるが、どういうふうに行っているか。

**(本山町農村みらい会議)**

- ・1人では進まないで、何人かで一緒にやろうという活動が始まっている。みんなでやると、1人でやるより倍くらい刈っていけるとか、達成感がすごい、刈った後を見たら綺麗だった、それをやって、後で一杯飲むというのが一番。大変は大変。
- ・これから先、高齢化率も高くなる。棚田は機械で刈るわけにはいかない、草刈機でないと刈れないので、そこは大変。

**(釜ヶ淵みらい協議会)**

- ・うちは馬に草刈りをさせていたが、法面だとヤギがいいのかなと思う。

## <講評>

(小田切座長)

- ・ 本日の研究会は、テーマを「農地管理」に絞り、三組織にお越しいただき議論が弾み、論点が三つほどあった。
- ・ 1点目は、農地管理を巡って、何よりもその農地管理の内容は多様であること。
- ・ それから新しい土地利用。農地管理をするための土地利用は、従来の土地利用と違う場合が多い。そういう意味では、農村RMOの事業や最適土地利用総合対策の事業というのは、かなり近づいてきている、そんなニュアンスを受けとめた。
- ・ 農地管理を巡っては、実は農地管理自体を目的としてはおらず、その先に担い手を見据えてみたり、あるいはその先に都市と農村の交流を見据えてみたりとか、農地管理をするというよりも、より大きな目的が位置づいていることが確認できたように思う。
- ・ 2点目は、コミュニティビジネスという言葉、要するに稼ぐという活動をそれぞれが行われていることがよくわかった。これは農地管理というよりも地域資源活用なのかもしれないが、そこで出てきた大きな論点は、初期費用がかかる。これをいかに低減するのかが大変重要なポイント。場合によっては初期リスクがあって、それを低減するためのコンサルタントとか、そういうことも含めて新しい政策課題として出てきたように思う。
- ・ 稼ぐということをどのように支えていくのか、これもまた真剣に考える必要があるということだと思ふ。
- ・ 3点目は、RMOの大きな機能として、「人を繋ぐ」、「組織を繋ぐ」という言葉で表現できるような機能も出てきた。
- ・ 特に人については、「世代を繋ぐ」、あるいは「非農家と農家を繋ぐ」、もっと言えば「地域と関係人口を繋ぐ」といった「繋ぐ」という機能がRMOの中に発揮できる余地がある。あるいはそういう可能性があるというのが、はっきりと三つの団体から出てきたように思う。特に本山町からは組織を繋ぐという姿も見ることができた。
- ・ いずれにしても、深掘りをすることによってこれだけの論点が出てきたというのは、それぞれ三団体がいかに深く活動し、深く考えられているからということだろうと思ふ。